

登録コード	L1941100	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史発展演習						
英文授業名	European and American History: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文第3講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			西洋史について独自の理解を培うことができる			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			西洋史についての情報を見分けることができるようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			西洋社会についての専門的な理解ができるようになる			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	出席者各自の研究テーマについて、報告をしてもらう。報告の内容について、議論をする。						
授業計画	学生の研究等により各回の計画を変更することがありえる。 第1回：ガイダンス 第2回：レジュメの書き方指導 第3回：第1グループ、調査報告と討論 第4回：第2グループ、調査報告と討論 第5回：第3グループ、調査報告と討論 第6回：第4グループ、調査報告と討論 第7回：第5グループ、調査報告と討論 第8回：第6グループ、調査報告と討論 第9回：第7グループ、調査報告と討論 第10回：再調査発表会 第11回：再調査発表会 第12回：再調査発表会 第13回：再調査発表会 第14回：再調査発表会 第15回：反省会 授業アンケート						
成績評価の方法	研究報告の内容 80パーセント、討論 20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	出席をすることが前提条件である。報告の内容が、よく整理されていて、さらなる問題を提起するものであれば『かなり上にある』と評価される。報告の内容が、よく整理されていれば、『やや上にある』と評価される。報告の内容がまとまっていなが、努力が認められる場合には『その水準にある』と評価される。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献も含めた広い情報源から考察を試みたものは『卓越している』と評価される。						
事前事後学習の内容	事前に各自のテーマに必要な文献を読んでおくこと。 事後に、不足していた情報を補う文献を調べて読んでおくことが望ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにご連絡ください。						
教科書	授業時に指示する。						
参考書	授業時に適宜指示する。						